

# 平成29年度福岡市小図研 7月定例会記録②

文責：伊賀綾子（香椎浜小）

## 第5学年題材

### 「立ち上がれ！マイライン」

講師：教育委員会 教育支援課  
河手想志先生

## ★題材指導の考え方と指導の実際

### 1. 図画工作科学習について

#### ①大切にしたいこと

- ・子どもの**満足感**・自己肯定感
  - ・子どもが**自分の思い**を持つ（表現主題）
  - ・子どもが**試行錯誤**する機会（教師は待つ）
  - ・子どもが**自分で考え工夫**する（自己決定）
  - ・子どもの**活動時間**の保障
- （8：説明，30：活動，7：ふり返り）

※主語は教師ではなく、子ども

#### ②気をつけたいこと

- ・作品の出来映え<子どもの**満足感**
- ・画一的な指導（〇〇式）は教えやすいかもしれないが似たような作品になり、子どもが表現したい作品になるとは限らない。
- ・子どものための時間≠放任

#### ③授業作りのポイント

- ・子どもに発揮させたい力を意識  
（例：感じ取る力，組み立てる力など）
- ・ねらいの明確化⇨子どもが自分で考えるための視点の明確化

### 2. 導入の工夫（第1，2時）

#### 〈発想・構想・表現〉

- ①時間割に題材名を書かない。また「お楽しみ」など書いておく。  
→題材に対してわくわく感を持たせる。
- ②導入時には椅子だけ持って教卓の周りに来さ

せる。

→教材がよく見えるようにする。

#### ③はり金を直接見せず紙に包んで見せる。

→音や大きさを見て材料に対して関心を高める。



はり金は先を丸めてけがをしないようにする。（安全指導）

#### ④新しい道具の紹介

つなぐ・切る→ペンチ・ラジオペンチ

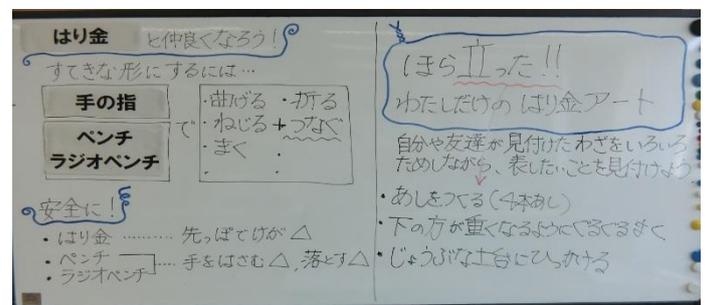
#### ⑤はり金でどんなことができそうか想像させてから活動する。

→実際に活動させる中で実感させる。

#### ⑥試してみても…

自分の作品を立たせてみよう

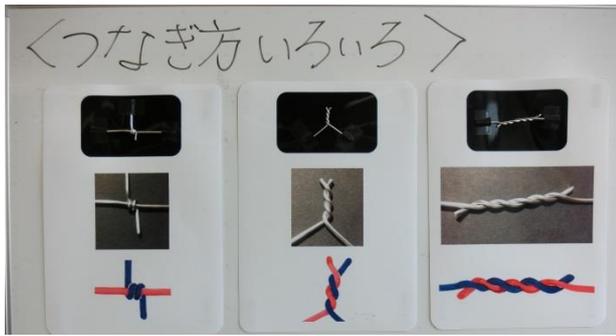
→「ほら立った！わたしだけのはり金アート」



### 3. 表現（第3，4時）

#### 「もっとすてきになるように」

- ① はり金の使い方を工夫する。  
→全体の形，かざり，技



② 友達と話す。

→アドバイスを申し合ったり、良いところをまねしたりする。



※教師は机間巡視しながらアドバイスをや上手な作品の紹介をする。

#### 4. 鑑賞「展覧会をしよう」

①三人組を作り、机に作品を置き、横一列にならぶ。(向き合わない)

②発表する子どもを真ん中にして同じ方から作品を見る。

→発表者と同じ方向から見ることで、より考えを共有できる。

③自分の作品について発表し、他の二人から感想をもらう。

④次の発表者が真ん中に来て鑑賞する。



(参加者も子どもになって鑑賞活動)

#### 5. Q & A

●はり金の準備について

→材質はアルミが加工しやすい。

- ・太さは2, 3種類あるとよい。
- ・針金が絡まないように工夫する。



針金の出し場所は一箇所にする

中心に筒を置く

●道具の使い分けについて

ラジオペンチ：細かい作業で使う。

ほぼこれだけで作業できる。

ペンチ：きれいに直角に曲げるときに使う。

力の弱い子が切るときに使う。

●発想・構想で、子どもの作品をどこまで認めるのか。(例：蝶)

→実物を再現するわけではない。

- ・自分なりの作品にする。
- ・実際にはない、オリジナルの作品
- ・形<線 (はり金の特性)
- ・ただの蝶ではなく「〇〇な蝶」という形容詞を考えさせる。

●折れ曲がったはり金を元に戻す方法は？

→硬い棒 (机の脚など) にはり金をこすり合わせる。

#### 授業研究部会 \*市地区大会に向けて



題材指導計画や本時の授業展開などについて、学年部に分かれ、検討しました。

